

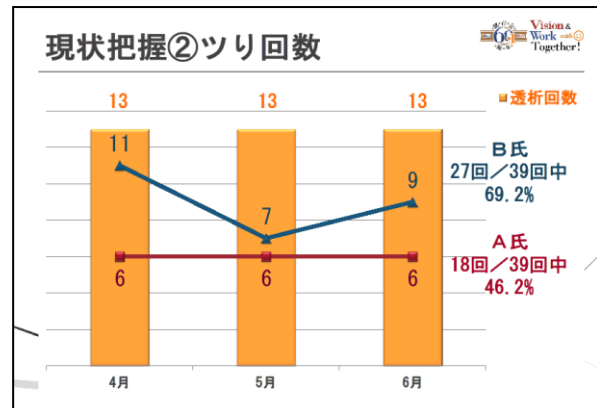
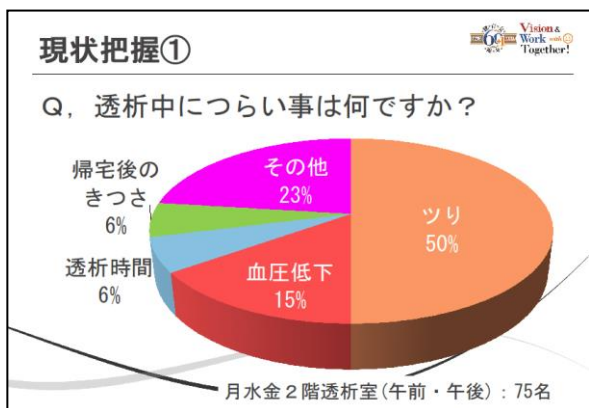
演題名	透析におけるツリ回数の低減！		
施設名	茅ヶ崎セントラルクリニック	発表者(職種)	森川 元気 (臨床工学技士)
活動の種類	質・安全・能率・CS・モラル・コスト	取り組み種別	問題解決型・課題達成型
改善しようとした問題 課題	水を抜く方法を変更し、苦痛となっている透析中のツリの回数を軽減する		
改善の指標とその目標値	(指標)特にツリを起こしやすい患者2名のツリ回数 (目標値)透析中のツリ回数を0回へ		
実施した対策	①体重増が+4%以内に抑える食事・飲水量 ②運動方法を透析実施日前に変更 ③水を抜く方法を均等除水から段階除水へ変更		
改善指標の対策実施前後の変化	(実施前)8月～9月 各月透析回数13回中A氏平均5回、B氏平均11回のツリ回数 (実施後)10月～11月 各月透析回数13回中A氏平均1回、B氏平均4回のツリ回数 A氏にいたっては11月のツリ回数0回		
チームの名称	ツリ撲滅組合	リーダー名(職種)	森川 元気 (臨床工学技士)
		チームの人数	7 名
活動状況	平成 26 年 6 月～ 12 月	平均会合時間	40 分
	会合回数	10 回	平均会合出席率

### 組織方針

- 患者さんの生き生きとした人生を支援する
- 透析専門クリニックとして「斬新」、「独自性」のテーマに取り組んでいく

### テーマ選定

課題	◎5点 ○3点 △1点					評価得点
	優先度	重要度	患者影響度	スタッフ負担度	実現性	
患者さんと接する時間が少ない(心理的負担の軽減)	○	○	◎	△	△	13
穿刺等の技術力の向上など学習機会が少ない	◎	◎	◎	◎	△	21
透析中の苦痛を軽減する事	◎	◎	◎	○	◎	23



### 目標設定

対象	性別	年齢	透析歴	ツった回数
A氏	男性	72	13年2ヶ月	18回/39回中 【46.2%】
B氏	女性	75	1年2ヶ月	27回/39回中 【69.2%】

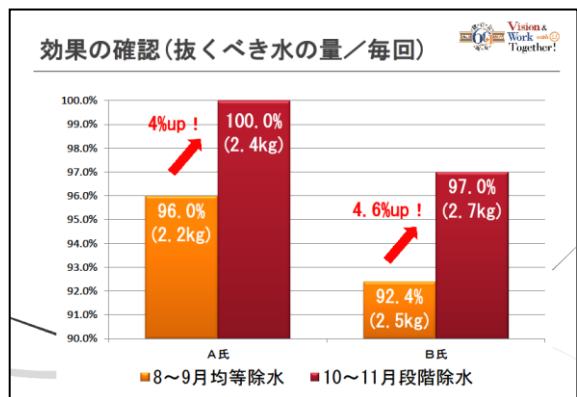
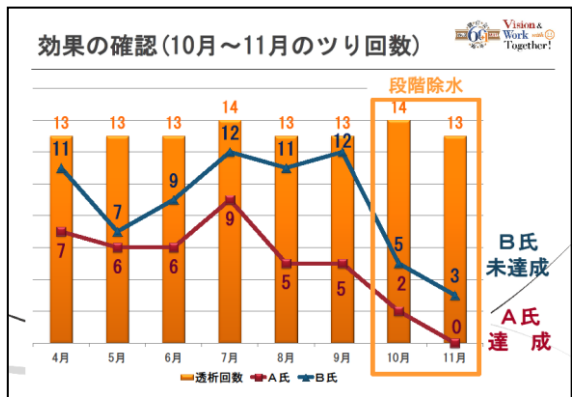
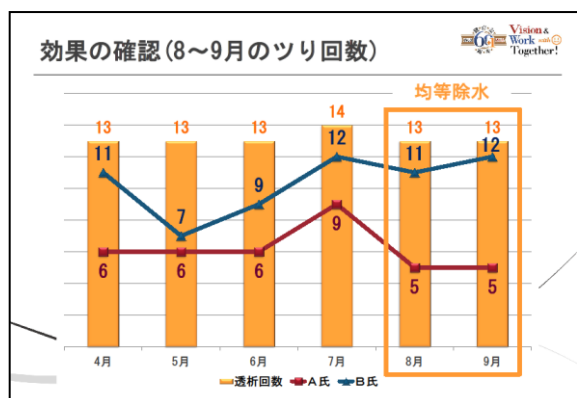
※体重コントロールが+4%（理想値）以内の方  
※ツリの防止薬を飲んでいるにも関わらず、つってしまふ方

## 11月までにツる回数0回

### 要因分析

### 対策の実施

why	what	When	Who	Whom	do
水を抜く量を減らす為	食事の摂る量を	8月より毎月	栄養士が	患者さんに	指導する
身体への負担を減らす為	日常の運動の仕方を	8月より毎月	医師と看護師が	患者さんに	説明する
ツる回数比較する為(減らす為)	一定量の水を抜く方法を(均等除水)	8月と9月	臨床工学技士が中心となり	患者さんに	実施する
ツる回数比較する為(減らす為)	前半に水を多く抜く方法を(段階除水)	10月と11月	臨床工学技士が中心となり	患者さんに	実施する



### 波及効果

who	why	what	do
A氏とB氏ともに	ツる恐怖心が軽減された事で	透析治療内容(体重増加抑制)に	積極的になった
A氏は	水を抜く量が2.2kg→2.4kg(96%→100%)に向上した事で	月2.6kgの(200g/回×13回)	飲食量の向上につながった
B氏は	水を抜く量が2.5kg→2.7kg(92%→97%)に向上した事で	月2.6kgの(200g/回×13回)	飲食量の向上につながった
18人の患者さんに	ツリ防止薬水を抜く量の向上の為	前半に水を多く抜く方法を	行っている

### 反省と今後の課題

評価項目	良かった点	悪かった点	今後取組むべき事
①テーマ選定	理念に沿ったテーマを選定出来た事	—	透析専念だから出来る人生を支援するテーマに取組む
②現状把握	患者さんが「つらい」事を把握できた事	患者さん全員の意見ではなかった事	現状のデータの取り方を全体で観るようになる
③目標設定	毎回のデータから、具体的な数値に絞れた事	—	チーム医療で取組む
④要因解析	主要因をチーム医療で取組めた事	なぜ、なぜの要因分析が深くなかった事	要因解析を深化する
⑤対策の立案と実施	何が一番効果的なのかを立案し、実施した事	—	別の人の場合は違う方法がある事を念頭に置く
⑥効果の確認	A氏は目標数値に届いた事	B氏は目標数値に届かなかった事	—
⑦標準化と管理の定着	前半に水を多く抜く方法がツリ防止薬になった事	—	患者さん個々の状態に適した水の抜き方の探求